

皮膚以外の部位に発生する悪性黒色腫(メラノーマ)

(文責:皮膚科 是枝 哲)

悪性黒色腫(以下メラノーマ)は皮膚科領域にて悪性度の高い腫瘍として知られています。通常は皮膚に発生しますが、粘膜にも発生することもあり、時に内臓に発生することもあります。これはおそらく、胎生期に母斑細胞が内臓に迷入し、後に悪性化したのであろうと想像しております。

ここ最近にこのような、皮膚以外の部位に発生するメラノーマの症例をいくつか経験しましたので、お話いたします。

肝臓のメラノーマ1例:症例43歳女性。エコー、CTで肝内腫瘍を指摘され、当院外科に入院し肝生検施行しメラノーマと診断された。全身検索を行ったが、他に原発巣は発見されなかった。皮膚科に転科しDAV-Feron施行。他院で免疫療法受けるが死去。

前腕軟部組織のメラノーマ1例:症例48歳男性。某病院にて、左前腕に腫脹疼痛出現のため筋膜切開目的で皮切したところ皮下に充実背の腫瘤認められた。メラノーマ、もしくは明細胞肉腫疑われ、当院整形外科、皮膚科でフォローとなった。DAV-Feron、DAC-Tam施行。効果なく、他院フォロー中に死去。

鼻腔、副鼻腔のメラノーマ2例:症例1、54歳女性。鼻腔内のメラノーマのため当院耳鼻科にて切除術施行。その後皮膚科に転科しDAV-Feron施行。現在フォロー中である。症例2、49歳女性。副鼻腔内のメラノーマのため当院耳鼻科にて切除術施行。その後皮膚科に転科しDAV-Feron施行。現在フォロー中である。

眼のメラノーマ2例:症例1、64歳女性。某大学病院で陽子線治療施行。失明するも局所治療は腫瘍を消退させ得た。肝、肺に転移のため、皮膚科にてDAV-Feron施行。転移巣は増大したため、次の治療を模索中。症例2、68歳男性。某病院で眼球破裂のために摘出し、メラノーマと診断される。結膜に浸潤有り。根治手術を拒否したため、皮膚科にてDAV-Feron施行中。

膣のメラノーマ1例:症例歳女性。婦人科、形成外科で手術施行後、皮膚科にてDAV-Feron施行中。その他に肺に多発性腫瘍があり、それがメラノーマであった症例が他科に入院されているようです。現在、原発巣は不明なのですが、「以前は親指の爪が真っ黒だったけど、今は正常色になっている」と患者さんがおっしゃっています。珍しいケースですが、その爪が原発巣であり、自然消退と転移が認められたのではないかと考えられています。

このように皮膚以外の部位に発生したメラノーマの症例を数多く経験しました。メラノーマの化学療法はダカルバジン、ニドラン、オンコビン、インターフェロンをを用いたDAV-Feron療法が標準です。もし、上記のような皮膚以外の部位に発生したメラノーマの症例がありましたら、手術方針、術後の化学療法のことなどに関して気軽に皮膚科までご相談ください。多くの場合、術後に皮膚科に転科して化学療法を施行しております。